【阿Qの太平天国のお知らせ】阿Qの好きなみなさんは阿Qフリークの全国組織・秘密結社「太平天国」に入会しましょう。わずかな年会費で、阿Q手帳や阿Q特製シングル(☆)

リリーステーのラスベガスチックライブ決定!!

東京:恵比寿ファクトリー3

前売¥2,575(全立席) 当日¥2,884

18:00開場 チケットぴあ チケットセゾン 発売中
19:00開演 問合せ■フリップサイド 03(770)8899

主催/ニッポン放送 企画/㈱ハンズ 制作/㈱フリップサイド
提供/㈱ブラッツアーティスト 後援/㈱ブラッツ

2月21日

【東京二十日=孫特派員】NASA(合州国航空宇宙局)のスポークスマンは二十日未明に緊急の記者会見を開き、NASAが日本の半導体メーカーAQと共同開発したトリトン探査ロケット「あえて言うとするならばだ号」を、米国東部標準時で二月二十一日午前零時(日本時間=同日午前十時)、オーストラリアのパース沖合で去年の一月に鈴木秀雄さん(チョッパー・ベーシスト)がジェットスキーで衝突してから故障して停泊したままのポート「リメンバー・マンジュウ号」から打ち上げると発表した。

この突然の発表は、すぐに米国全土をかけ巡り"BO MEH?"というUPIやAPなどの外電が日本に殺到した。またFBIも永田町内閣調査局詰所に至急の調査協力を要請。日本政府は各方面に緊急通達を出し「AQ」なる組織の解明を急いだ。

しかし、日本に「AQ」という半導体メーカーは存在せず、同日深夜になり、東京・渋谷区のレコード会社㈱ブラッツより、「AQは"ANIMAL QUEEN"(獣の女王)の略で、漢字で『阿Q』と書く高級繊維メーカーの屋号」という発表があり、河豚田官房長官も政府談話としてブラッツの発表を大筋で認めると見解を出し、事態は一応の終結をみた。

本紙編集局の取材によると、この「阿Q」なる「繊維問屋」は四年前に仙台で開業し、それまで東北地方に商圏を拡張。その後、東京に本社を移転して現在に至っている製品を無理矢理、仙台などの商店におろし、折からの好景気に便乗して東北地方に商圏を拡張。その後、東京に本社を移転して現在に至っている主流通ルートを開拓。なかった自前の化繊業界が扱ってい屋は、

メーカーでありながら、これまでにサターンV型「マザー・スタンディング号」(日本名・岸壁の母号)と衛星中継ロケット「リレー号」(「リレー」と「中継」をかけていることなど、誰もわかってくれまい)の二本のロケットを打ち上げており、今回のロケットは「これまでにもまして阿Qブランドの個性を明確に出し、『カリブ海の砂浜で誠実でスリムな黒人の青年たちがベーシックな躍動的リズムに乗ってロックをかもし出す雰囲気』を主旋律に制作してみました」(小野寺社長)というテーマが充分に露出されている作品といえよう。

なお、このロケット打上げ当日には東京・恵比寿ファクトリーIIIで、夏物のコレクション発表会が開催される予定で、期待される。

中堅繊維メーカーと判明。パンタロンや「へそ出し」ルックといった従来の伝統的なスタイルが、DCブランドや渋カジなど「NEWい」トレンドに淘汰されてゆくなかで、あえて「チャラチャラした流行に左右されない」という、いわば『暮らしの手帖』的な頑固さで営業を続け、写真のようなスットンキョウさと、ハーモニカルな抑揚でもって今日に至っている。

そのような経過のなかで、繊維

阿Q通信公司公認機関報
発行:㈱ブラッツアーティスト
東京都渋谷区広尾5-21-2
長谷部ヴ2ビル3階 〒150
電話 03(449)9711
郵便振替 東京8-357538
加入者名:阿Q通信公司
編輯人 櫻村不二夫
太平3年 1月25日発行
第2巻 第1号 通巻3号
毎月1回25日発行(予定)
第三種郵便物来認可

【阿Qビデオ情報】というわけで、阿Qさんサード「あえて言うとするならばだ」から「起きろよ」がビデオ化されました。痛快なアップビートのビップソングです。(△)

なんでこうなるの 阿Qイメチェン現場に潜入

【東京二十四日=フランソワーズ記者】十二月三十一日のロックンロール・バンドスタンド川崎チッタにおいて、阿Qは、あの、これまでの阿Qファッションに史にも金字塔を建てたと評判非難轟轟歓喜の御衣裳「阿Qイケイケ七〇年代オサイケ黒人の同性愛はハッピー・スタイル」で登場し、それを見た阿Qフリークは思わず視線を床に落としてしまったものの、その顔は笑っていた、という珍事が起きた。

「阿Qは変わるぞ」とかねがねタラコも主張していたものの、あれはいったい何を考えているのかしら。

今までの阿Qを信じてきたのに——と唖然としても仕方ないファッション……。

しかし、それでも、それが、まだステージだけならいい。見る人は限られているから。それなのに、阿Qったら、何を考えているのか、CDのジャケットもボ

スターも、雑誌のグラビアでも、みんなアレなの。ましてや、ビデオも「アレ」なんですって、信じられない。

というわけで、あの心機一転、沙羅双樹の花の色、六根清浄のイメージチェンジは、昨年、十二月上旬より、パッパラパーになってしまった阿Qさんや阿Qスタッフに加え、この「阿Qイケイケ大計画」を現実にしてしまい阿Qのスタイルの考案から、ビデオに登場するセイモア=ダンカンやモーリス=グレコも真っ青のドリーミン・ギターやタイムトラベリン・ドラムの製作まで大忙しの奥平イラ先生を親方に、極秘のうちに開始された。

阿Qは、その変化に気づかれぬよう、都内を転々としながら、ま

であるが、気にしないでいただきたい。

そうしてピースケさんはご覧のようにビホビボ。ほとんど、『猿の惑星・第六話』を製作したら、こんな「自由の女神」が登場するのではないか、というような御姿となってしまった。

そして衣裳も、あのダイテツ様までが、このようなヘンなカッコウで登場です。衣裳を担当された篠あゆみ先生は「チャップリンがはいていた黒靴のデザインで、しかも底が一〇センチはある白い皮靴」などという、まるでかぐや姫を后(きさき)に欲する京の殿上人たちに下された「甘い蜂蜜をな

めた熊の手をツバメの巣に使った枝ばかりで焼いてフカヒレのダシで煮たシチュー」を入手してたもれ」という無理難題のような、「どこにそんなのがあるの……」というアイテムばかりを要求されるほど。

こうして、ジャケ写やポスターの撮影が終わり、そして「起きろよ」のビデオ撮影です。阿Qさんは真剣そのもの。マンジュウさんなんて、おデコにサングラスをかけさせられても、こんなに神妙な

表情。

スタジオでも収録の合間をぬって、「ハイ、ワンツー、ワンツーそれぞれそれぞれっ、アンドゥトロワ、指先見てっ」と振付け師の奥平先生を前に懸命に練習です。こうして「起きろよ」のビデオは完成しました。めでたしめでたし

【注】本ページ「阿Q新年会」の記事で、ピースケさんが愛車BMWに乗っているという情報および写真がありますが、また、こんな、しょせん『MOGE』の情報です。(♡)

今年の太平天国はすごい

阿Q「ラスベガス」シングルCD!!

ついに、九〇年度の阿Q「太平天国」豪華国民グッズが発表になった。ここ一年の間に国際情勢はめまぐるしく変化し、わが太平天国も南アフリカでの黒人解放運動指導者ネルソン=マンデラ氏が二十五年ぶりに釈放されたことを記念し、本年度はこれまでにもまして御祝儀の嵐、豪華な国民グッズを提供することになった。

すでに昨年末から年度更新を開始しており「いったいいつになったらグッズをくれるのよ」と怒り浸透のア・ナ・タ、申し訳ない、ようやく発表する。

なんと本年度は、毎年お馴染みとなった豪華特典付阿Qメンバーオリジナル製作の「阿Q手帳」の他、なんと「あえて言うとするならば」リリース記念総天然色がまぶしいB4版「阿Qパンフ」、そして、ななんと、これまで発表が待たれながら噂だけに終わっていた、タラコ本人ミキシングによる、これまでの阿Qサウンズを夜空に輝く星々ほどリミックスしてしまった阿Qダンサボゥ CDシングル「阿Q・ラスベガス・リミックスCDシングル」が配給されてしまうのだ。

もちろん、このラスベガスCDシングルはレコード屋さんでも阿Qのライヴ会場でも発売されていない、太平天国特製のもので、これを入手すれば、なんと十五分にもわたり、阿Qのダンサボゥな名曲が酒池肉林、ずっと踊ってしまえるわけだ。

もともと、タラコは実は〇〇〇〇が好きで、その〇〇〇〇〇〇好きがこうじて自分で〇〇〇〇〇〇のリミックス・テープを作ってしまい、そこまでやるなら、いっそのことタラコがやっているバンド「〇〇〇」のリミックスを作ろうという話がでて、どうせなら太平天国の国民に配給しよう、というわけだ。

たった二〇〇〇円の年会費で、ここまで豪華特典をつけてしまっては公正取引委員会のチェックが入るのではないかと心配されるほどだが、タラコは左上の写真のように、真剣に高度人工頭脳超高性能コンピューターを相手に詳細にデータを分析し、阿Qがこれまでに発表した三五万二四三八曲からダンサボゥなメロディー十数曲をセレクトし、タラコの自宅にある寝室と居間を兼ねたスタジオで、坂本龍一やダイアナ鈴木、富田勲やクラフトワークも持っていない器材で編集を続けたのだ。

聞いて踊れる日が楽しみな豪華CD。期待していよう!

阿Qもしもしダイヤル

最近はコマメにネタが変わることで評判の阿Qもしもしダイヤルは、月刊『MOGE』では伝達が不可能なディリーなニュースをスピーディに紹介することで有名。(『MOGE』だって本当に毎月ちゃんと出ればいいのよ、という不満はまぁ置いといて、置いといて)

電話番号は 03(449)9711

たまに電話のむこうでワイワイギャーギャー騒いでいる阿Qフリークもいるが、その声は受話器を通してちゃんと聞こえているので充分注意するように。「わー、タラちゃんがしゃべってる」などと爆笑しているが、彼も立派な大人だ、そんなことで爆笑しては本人が傷つくだけなので、嘘でも「素敵な声ねぇ」とか言ってほしい。

最年少阿Qフリーク

こんなイタイケな少女を外に立たせてまで、阿Qはライヴハウスにお客さんを入れたいの?——いや違う。

彼女は東京や近郊の阿Qライヴではお馴染み、まだ小学校二年生の阿Qフリーク、大西宏子ちゃんなのである。

某ライヴハウスの入口で撮影したため「こんなイタイケな少女を……」と誤解されそうだが、彼女は熱心にも阿Qマークのセーターをお姉さんとペアで著名な塚本金重先生とスウィート=マンジュウ先生がピースケのドレッドなヘアを編む。マンジュウ先生もちょっとヘンなオグシ

編んで、それには「なんだ、それ?」と追及されながらも「子供にはわからないのよ」と強く生きている。

そんなつらい日々も、阿Qライヴがやって来ればオサラバだ。否応にもみんなの注目のマト、ステージの前で「タラコーッ、ダイテッーッ」と応援しながら踊っている。

私たちが、朝顔やひまわりの成長を観察ノートに記録し、小学校で授業中に「働くおじさん」や「できるかな」のTVを見て感動したように、阿Qなど聞いて、しかも、時代が変わったとつくづく痛感してしまうわけだが、これが新人類というものかもしれない。彼女の健やかな成長を祈る。

阿Q新年会

チャン、チャララチャララン(と上がる)、チャン、チャララチャララン(と下がる)、と書いても、ッッッ